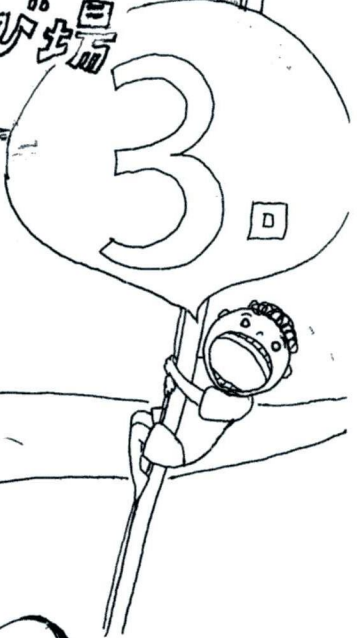


# 小学生! 放課後あつまれ!! 森が遊び場



## 9/29 (木)

ほうかご  
放課後～5時

今回も **なかたの森**だよ!

- \*だれでも自由に遊びに来れるよ。
- \*お金はいらないよ。
- \*今回は特別!  
金曜日は毎週やってるよ。

# 小学生！放課後集まれ！！森が遊び場 ～第2回の活動より～

## スタッフ日記

- コツコツもくもく作るのが好きな子、思いっきり体を動かすことが好きな子、いろんな子がいるからいいんだよね。
- ナイフがうまくつかえなかったけど、また森でトライしてみてね！
- 「著作リ」をしてみたことで、今度は君自身のやってみたい！が見つかるの良いなあ。
- 回を重ねることで、毎週金曜日にも小学生が来てくれるようになって嬉しい！

保護者の方より...

- 家でやられると、ハラハラして見ていられない。
- ケガをしても良いから、家で出来ないことが体験できる場があって嬉しいです。

この活動も今回で3回目。

知った顔の子ども達が徐々に増え、子ども達が「また来たよ〜！！」とやってくる姿にあえることが、私達スタッフの喜びにもつながっています。

子ども達に子どもらしく生き活きと遊べる遊び場を・・・  
どの子も自分らしく、そのままいられる居場所を・・・  
次の時代を生きる子ども達が豊かに成長できる環境を・・・

これからも地域の皆さんと一緒に  
「子どもが主人公の居場所」を作り続けていきたいと思ひます。

## 「里山の学校」

村上龍(作家)

Educationという言葉は日本語で「教育」と訳されたが、原語のニュアンスは「能力を開発する」に近いらしい。どういふわけか、日本では教える育むという大人の側からの意味づけがなされたわけだが、本来 Educationの主体は、子ども達なのである。——中略——

子どもの能力を開発するということとは、子どもを一人で生きていける大人にすることでもある。だから日本とは違って欧米先進国では職業教育が重要視される。職業教育には、他者とのコミュニケーションスキルも含まれる。「里山の学校」の特色の一つは、学年が違ふ子どもたちが一緒に遊んで自然の中で過ごすことだ。もう半世紀近く昔、わたしが小学校のころは、学年年齢が違ふ子どもたちが一緒に遊んでいた。家が近い子

と遠くまで空気に集まって「陣取り」や「缶蹴り」をするしか、他に遊びがなかったからだ。

小学校低学年の子どもにとつて、高学年のお兄ちゃんは大も同然だった。情報量も体力もまるで違ふので、緊張や対立が生まれてもケンカにならない。必ず負ける。泣くまで殴られてそれで終わりだ。だがお兄ちゃん達は理由なく殴つたりはしなかった。殴られる理由がちゃんとした。そういう関係性に身を置くことで、わたしは「こういうことを言つたら殴られる」「こういう態度だったり、こういう言い方をしたら殴られる」ということを学んだ。それは貴重な体験だった。現在、子ども時代にそういったことを学べる場はほとんどない。

能力を開発し、一人で生きて

いける大人にすること、それが Educationの本質だとしたら、重要なことが二つある。一つは、興味があることと出会ふ経験をすること。もう一つは、明らかに自分とは違ふ他者とのコミュニケーションを覚えることだ。驚くべきことに「里山の学校」にはその両者が備わっている。単に泥んこになって遊ばないということではない。里山の学校の大人達は、単に「教え育む」人ではなく、いっしょになって「遊び・学ぶ」人だ。いっしょになって「遊び・学ぶ」のは簡単ではないが、きつと根源的な喜びがあるのかも知れないと思う。里山の学校では、子どもたちだけでなく、大人たちも活き活きとしているからだ。

映画「里山の学校」パンフレットより

※「里山の学校」とは、千葉県木更津市の里山で毎週土曜日に開かれている「土曜学校」のこと。ここは、今の学校教育とは全く異なる学びの場で、自然に抱かれて、異年齢集団で遊びながら、探求心いっぱい、やりたいこととことごとく取り組むことが出来ます。私達もこうした場をつくっていくことを目指して活動しています。

■主催 NPO法人 子どもへのまなざし ■協賛 日野市一中地区育成会 ■日野市市民活動助成事業

(URL) <http://manazashi2009.sakura.ne.jp> (Blog) <http://nakadanomori.blogspot.com> (お問い合わせ) 050-3721-1973 (月～木・13時～17時)